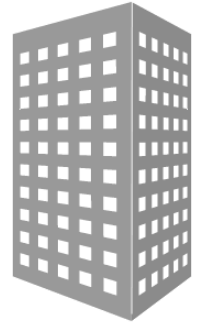
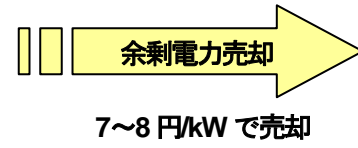


シンシア横浜 R・C センターでは 6,000 kW 発電できます



シンシア横浜 R・C センター（産業廃棄物処理施設）

ごみ発電による電力 **6,000kW**
※施設稼働に必要な電力を全てカバー



特定規模電気事業者（PPS）

ごみ発電で得られる 1 か月の電力量は…
一般的な家庭の 15,000 世帯分に相当する

4,320,000kWh

PPS とは特定規模電力事業者（Power Producer and Supplier）のことで、一般電気事業者（東電などの電力会社）の送電ネットワークを利用し、自由化対象となるお客様に電力を供給する事業者のこと。

※
シンシア横浜 R・C センターのごみ発電の発電効率は

12.6%（平成 23 年度実績値）


ごみ発電の平均発電効率 6.9%

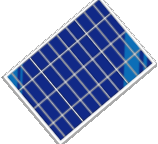
（環境省資料「参考資料 熱回収の現状」<http://www.env.go.jp/recycle/misc/thermal/ref.pdf> より引用）



この **4,320,000kWh** を今話題の**太陽光発電**で発電するには…

日照時間や天候、季節に左右される**太陽光発電の発電効率（設備利用率）は 10~12%**とされているので、
なんと!

 × **19 個**
東京ドーム（46,755 m²）
※1
約 **900,000 m²**

 太陽光パネル（1.6 m²）
※2
× 約 **320,000 枚**

 初期投資金額
※3
約 **260 億円**

■ごみ発電の発電効率の算出方法

※ごみ発電の発電効率（%）= 発電量 / 投入した廃棄物の発熱量 × 100

■算出の根拠

太陽光パネル（1 モジュール 1.6 m² で 0.19kW 発電可能なもの）を使用すると仮定。

※1 上記パネルで 6,000kW を発電する為には、32,000 枚のパネルが必要。パネルの面積だけで、50,000 m² 必要となり、これらを日照効率やメンテナンスを考慮して配置し、パワーコンディショナーなどを含めて 1.8 倍程度とすると 90,000 m² の敷地が必要。加えて、太陽光発電の発電効率（設備利用率）を考慮すると、シンシア横浜 R・C センターと同じ電力量を発電するには 90,000 m² の約 10 倍の面積 900,000 m² が必要。

※2 シンシア横浜 R・C センターと同じ電力量 4,320,000 kWh を発電する為に必要なパネル設置面積は 900,000 m²。上記パネル使用の場合約 320,000 枚。

※3 シンシア横浜 R・C センターと同じ電力量 4,320,000 kWh の初期投資金額は、パネル等設置費 350 千円/kW（コスト等検証委員会）と系統連系設備などを見込み、およそ 26,000,000 千円となる。土地代は含まない。

しかも!

2012 年 7 月「再生可能エネルギーの全量固定価格買い取り制度」導入



電力会社が発電事業者から太陽光発電の電力を買い取る場合、

1kW 当たり 42 円、大規模なメガソーラーの場合この価格が 20 年間保証



電力会社



電力

太陽光発電による電力売却



太陽光発電事業者

42 円/kW で買取り

買取りに要した費用は「賦課金」として電気代の一部に。

つまり!



電気代が上がり、国民の負担が増えることとなります。